

地方創生関係交付金事業についての質問・回答

No.	事業の名称	質問	回答
	(全体について)	<p>取り組み効果の4段階の判断について、どのような判断をするのか具体的な指示内容は。</p> <p>効果が判断できない場合はどうなるのか。</p>	<p>取組効果の4段階については、事業の成果・課題や今後の方針等を踏まえ、総合的に判断している。目安としては、昨年度の国への成果検証結果報告様式に基づき、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標が目標値を上回った場合などは、非常に効果的であった ・目標値を相当程度達成した場合などは、相当程度効果があった ・事業開始前よりも改善した場合などは、効果があった ・実績値が本事業開始前の数値よりも悪化している場合などは、効果がなかった <p>としている。</p> <p>本格的な事業着手がこれからの場合も、今後の方針等を踏まえ、効果の判断をしている。</p>
1	地域資源を生かした高付加価値産業育成事業 とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略	<p>KPIの新規雇用者数の計測方法、定義は。</p> <p>年度別目標はないのか。</p> <p>雇用創出数の計算の仕方について説明してほしい。</p> <p>「とくしま食材ブランド化推進事業」の料理人や店舗等を具体的に知りたい。</p>	<p>計測方法は、徳島市の事業（創業促進事業、企業誘致・雇用拡大等推進事業など）に関連して、新たに雇用創出がなされた人数を、毎年度、計測したものであるとしている。</p> <p>年度別目標は定めていないが、5年間の累計で1,000人としていることから、毎年200人程度を目安と考えている。</p> <p>本事業では、SNS等での情報発信の実績があるなど、情報発信に長けた料理人や店舗を活用してPRイベント等を実施している。</p> <p>平成28年度は、次の店舗を活用して実施したところである。</p> <p>店舗①「ええもんあるでえ徳島Dining Tokushima (ちゃばら内)」 徳島県商工会連合会が運営する店舗。同店では、食材の良さを活かすイタリアンスタイルで、徳島の豊富な食材をメニューに仕立てて提供している。 シェフの杉本秀治氏は、同店開業時からチーフマネージャーとして活躍。 テレビの取材やWEB等でも取り上げられている。</p> <p>店舗②「キッチンハイク」 料理をつくる人(COOK)と食べる人(HIKER)をつなぐマッチングサイトを運営する株式会社キッチンハイクの店舗。 今回は、徳島市産食材を活用した予約制の料理フェアを10人の料理人に協力いただいて開催。 10人の料理人は、WEBを活用した発信力があり、フェア開催前から開催後も、それぞれSNS等のさまざまなWEB媒体を使って徳島市産食材だけでなく、徳島市の魅力を発信していただいている。</p>

No.	事業の名称	質問	回答
1	地域資源を生かした高付加価値産業育成事業 とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略	「地産地消推進事業」について、「とくしま食材フェア」の出店数、来場者数、総売上等の数値は年々向上しているのか具体的に教えてほしい。	<p>1 出店数 H26 38団体 H27 38団体 H28 35団体</p> <p>2 来場者数 H26 約28,000人 H27 約30,000人 H28 約25,000人（初日雨天）</p> <p>3 総売上（H28から集計開始） H28売上金額 2,542,020円 （有料出店数 29団体）</p>
2	賑わいコンパクトシティ形成事業	<p>指標①の数字と実績値+74人の意味の違いについて説明してほしい。</p> <p>社会増の数値、右上の実績値と左下の実績値の違いは。</p>	<p>左下の指標①（KPI）は、「県外からの転入者数」から「県外への転出者数」を差し引いた数であり、県内他市町村との間の転入・転出者数を含んでいない。</p> <p>右上の基本目標の+74人は、県内他市町村との間の転入・転出を含んだ社会増減数（転入者の総数から転出者の総数を差し引いた数）である。</p>
3	女性・若者活躍促進事業	<p>KPIの新規雇用者数の計測方法、定義は。 年度別目標はないのか。</p> <p>雇用創出数の計算の仕方について説明してほしい。</p> <p>市役所では、どれぐらいのスタッフがこの事業に関わっているのか。</p>	<p>計測方法は、徳島市の事業（創業促進事業、企業誘致・雇用拡大等推進事業など）に関連して、新たに雇用創出がなされた人数を、毎年度、計測したものである。</p> <p>年度別目標は定めていないが、5年間の累計で1,000人としていることから、毎年200人程度を目安と考えている。</p> <p>総数 17人 （内訳） 創業促進事業 2人 若年非正規労働者正規化促進事業 2人 市高生の次世代プロデュース事業 13人（市立高校教員）</p>

No.	事業の名称	質問	回答
3	女性・若者活躍促進事業	<p>「創業促進事業」について、セミナー参加者数、補助金相談者数は。</p>	<p>H28実績</p> <p>1 セミナー参加者数（延べ人数） 総数 335名 うち女性 156名 うち若者（35歳未満） 116名</p> <p>2 補助金相談者数 総数 20名 うち女性 6名 うち若者（35歳未満） 6名</p>
		<p>「市高生の次世代プロデュース事業」について、アクティブラーニングに関して、H30年度「試行」、H31年度「本格実施」は、現実に即していないのではないかと思われる（既にかなり進んでいるのではないか）。地域理解地域課題学習の内容について教えてほしい。</p>	<p>市立高校では、「新しい学力観」や新制度入試への対応を進めているが、依然として従来の入試と併用のため、全面的にアクティブラーニングに移行するのではなく、漸次取り入れている。</p> <p>地域理解地域課題学習については、1年次において、各クラスでグループを作り、徳島についてのテーマを定め、調べ学習を展開している。また、2年次2学期より、クラスを解体し、歴史文化・経済・健康・技などグループにおいて、フィールドワークを交えた調査や探究活動を実施することになっている。</p>
		<p>市高レインボウプラン（IRP）について詳しく教えてほしい。</p>	<p>市高レインボウプランは、生徒自身が自分の将来に向け、主体的に進路設計をしていくことを目的に始めたものである。</p> <p>高校3年間で1年「調査の年」、2年「行動の年」、3年「実現の年」と位置づけ、理数科セミナー、進路学習会、オープンキャンパスへの参加、進路希望別グループ活動、夏季学習セミナー、異文化交流活動など様々な体験学習を積極的に推進する中で、生徒が自ら課題を見つけ、問題を解決し、自分の進路を主体的に決定できる態度や能力を育成しようとしている。</p>